

大通イースト南1条ビル..... 66



設計
監理 株式会社 DESIGN FIELD

施工 株式会社 藤井工務店

ほくほく札幌ビル..... 67



設計
監理 株式会社日建設計

施工 岩田地崎建設株式会社

浦臼町多世代交流施設「えみる」..... 68



設計
監理 株式会社ドーコン

施工 三鉦・今田経常建設共同企業体

BiVi 新さっぽろ 69



設計
監理 株式会社ドーコン

施工 大成・宮坂共同企業体

北海道新聞社ビル..... 70



設計
監理 株式会社三菱地所設計

施工 岩田地崎建設株式会社

狸上るビル

71



設計 設計：株式会社竹中工務店北海道一級建築士事務所
監理 監理：株式会社サン設計事務所

施工 株式会社竹中工務店

D-LIFEPLACE 札幌

72



設計 設計：株式会社竹中工務店北海道一級建築士事務所
監理

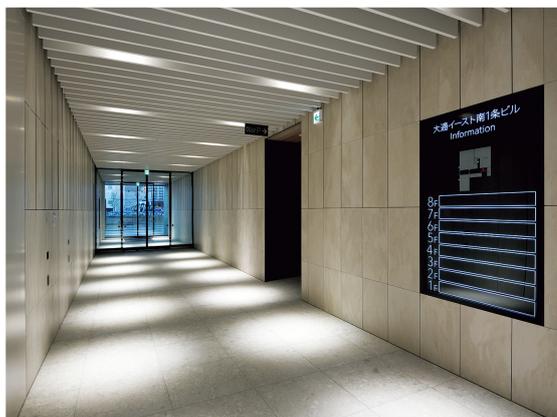
施工 竹中・岩田地崎・伊藤建設共同企業体

大通イースト南1条ビル

設計監理 株式会社 DESIGN FIELD
施 工 株式会社 藤井工務店



外観（北東面・昼景）



1階ホール



5階テナント（オフィス）

《設計概要》

面 積 延べ5,397.57㎡
構 造 S造（一部RC造）地上8階・地下1階
外観仕上 磁器質タイル、アルミサッシュ、
押出成形セメント板
工 期 令和5年3月～令和6年5月
建 設 地 札幌市中央区南1条東2丁目13-4の内

《設計主旨》

以前設計させていただいた創成イーストビルの並びに今回の大通イースト南1条ビルを設計する機会をいただきました。昨年掲載したCRES CUBEも施主は違えど、要件はほぼ同じ中小テナントビルの第3弾として「事業性」と「社会性」を両立したものを目標としています。

構成としては1階にオフィスか物品販売、2～8階にオフィス、地下に機械式駐車場を必要台数確保しています。

平面的には階段、エレベーター、水廻り等のいわゆるコア部分を最小限に配置してまとめ、東・北側（大通側）の道路面に貸床面積を最大限に確保して事業性を高めています。

立面的には以前の2物件と同じく今回の建物もECPと一般サッシュのコンビネーションです。創成イーストビルは縦のストライプ、CRES CUBEはクロスチェック、今回はバーコードのようなランダムなデザインとしています。限られた予算の中で、この規模の建物としては一般的な材料であるECPとサッシュ（カーテンウォールではなく）の構成で、いかに「自由で、軽やかで、多様な表現が可能か？」をテーマとしています。その様なテナントビルとして、都市に社会に貢献できる建物になればと思っています。

設計担当・神田雅章

ほくほく札幌ビル

発注者 株式会社北陸銀行
株式会社北海道銀行
設計監理 株式会社日建設計
施工 岩田地崎建設株式会社



外観 ©(株)鈴木文人写真事務所



内観 1階 オープンスペース(公開空地)©(株)鈴木文人写真事務所



内観 地下2階 オープンスペース(公開空地)©(株)鈴木文人写真事務所

《設計概要》

建設地 北海道札幌市中央区大通西二丁目5番地
主用途 事務所
延べ面積 17,350.18㎡ (5,248.44坪)
構造 S造 一部SRC造 RC造・地上13階・地下3階
・塔屋1階
工期 2021年11月～2024年2月
外壁仕上 PC版ふっ素樹脂塗装、アルミ断熱サッシ二次電解着色
設備業者 (電気設備) 株式会社関電工
(空調設備) 三機工業株式会社
(衛生設備) 三機工業株式会社
(昇降機設備) 三菱電機ビルソリューションズ

《設計趣旨》

北陸銀行と北海道銀行が入居するほくほくフィナンシャルグループの北海道における拠点となるオフィスビルです。
さっぽろ地下街および地下鉄コンコースと地下2層にわたり接続するほか、公開空地となる屋内広場を設けることにより、大通公園に面した通りでの新たな賑わい創出を意図しました。
特徴的な外壁は、着雪や落雪が起きない形状と仕上を用いており、彫りが深く光の当たり方で表情を変える、これまでにない雪国の景観づくりを目指しました。

設計担当・塩田哲也、中村友紀、山上直哉、阿久津翼

浦臼町多世代交流施設「えみる」

発注者 浦 白 町
 設計監理 株式会社ドーコン
 施工 三鉦・今田経常建設共同企業体



浦臼町にふさわしいワインレッドの外観



多目的室から見守られる屋外広場



切妻屋根の木骨石造の倉庫と、陸屋根の新築棟が建ち並ぶ



改修前の木骨石造の倉庫



改修後の木骨石造の倉庫



木骨石造の小屋組を見せる内装計画



多世代が自由に使える多目的室

《設計概要》

面積 延べ496.82㎡
 構造 木造平屋建て（新築）、木骨石造平屋建て（改修）
 外観仕上 カラマツ羽目板張り、ガルバリウム鋼板、軟石積み
 工期 令和5年6月～令和6年3月
 建設地 北海道樺戸郡浦臼町183-14、-494、-464の内、
 -147の内、-465の内、-56の内

《設計趣旨》

浦臼町多世代交流施設「えみる」は、地域のあらゆる世代の町民が自由に集い交流できる公共施設として建設された。ワイン用ぶどうの作付け面積と生産量が日本一を誇る浦臼町にふさわしいワインレッドの外観とし、農業倉庫として使われていた木骨石造の倉庫を組み込むことで、歴史的建築物を活かした施設とした。屋外には、子どもたちのための遊具や水遊び場や、高齢者

の散歩ルートとなる回遊できる遊歩道を設け、多世代で賑わう場所となっている。屋内には、多目的室や会議室、バス待合、事務所機能を設けた。多目的室は屋外広場を見守るように配置し、キッズスペースや調理スペース、自習スペースなど、多世代が自由に使える空間とした。

木骨石造の倉庫は、外壁の札幌軟石と木の架構を残しつつ構造補強と屋根板金の更新を行い、今後も長く使える建物に改修した。新築棟は3本で1セットとした柱・梁を採用することで、木骨石造の倉庫とは対比的に木材の小断面化を実現している。

歴史的建築物を活かし、地域住民に長く親しまれる施設として再生する建築のあり方を示した。

設計担当 総括・意匠：菅原統太・加藤弦生 構造：佐藤光
 設備：伊藤傑・中村陽彦・林達也・井後尋斗
 外構：川口賢一・木村仁哉

BiVi 新さっぽろ

発注者 大和リース株式会社 札幌支店
設計監理 株式会社ドーコン
施工 大成・宮坂共同企業体



建物の中心に設けられた吹抜の室内公園「BiVi PARK」



街区の顔となる曲線ファサード



低層部の賑わいがまちに
明かりをともし



様々なイベントに活用される
吹抜空間

《設計概要》

面積 延べ19,959.18㎡
構造 鉄骨造、地下2階 地上6階
外観仕上 ガルバリウム鋼板スパンドレル
工期 令和4年1月～令和5年8月
建設地 北海道札幌市厚別区厚別中央1条6丁目3番3号

《設計趣旨》

「BiVi 新さっぽろ」は新さっぽろ駅周辺地区G・I街区開発事業に伴い新たに整備された商業施設であり、札幌の副都心として新たに誕生する「マーク新さっぽろ」の施設群のうち、最後に竣工した施設である。

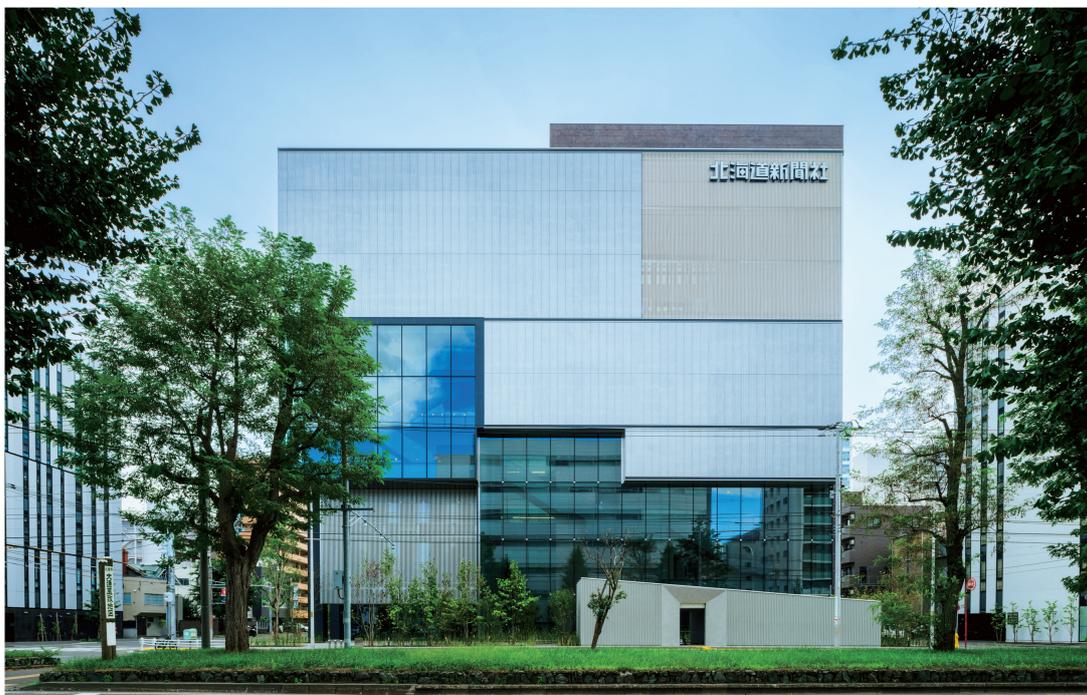
ファサードは「彩帯」という街区共通の景観デザインコードをガルバリウム鋼板と人工芝を組み合わせることで、ほかの施設と一体となって色彩豊かな景観づくりを目指した。幹線道路沿いのアイレベルはガラス面を多く採用し、地区施設となる歩道沿空地とピロティ空地を組み合わせ、ゆとりある通路空間と施設の賑わいがまちに広がる設えとした。夜間には店舗のあかりが行燈となり、周辺は冬でも温かみを感じられる場所となることで地域の安全安心にも寄与する計画と

なった。建物アプローチは地上エントランスのほか、地下鉄新さっぽろ駅と直結し、JR新札幌駅からも空中レベルでアクセスが可能となっており、2階レベルの上空通路は施設を貫通して、街区の奥まで来街者を導く、誘導性の高い計画としている。上空通路は地区計画による地区施設として公共通路に位置づけられており、開発街区の歩行者ネットワーク構築を担う施設にもなっている。上空通路から接続する施設の2階レベルは、屋内緑化と大型天井LEDビジョンによる室内公園「BiVi PARK」が広がる。積雪寒冷地では冬期に緑を感じられる屋内空間はめずらしく、中央は人工芝となっており、カウンター・ベンチが周辺に配置された「ひろば」のような憩いの場であるとともに、天井や柱に設置したLEDビジョンにより変化のある空間演出がなされることで非日常の空間体験が得られる場となっている。「ひろば」となるBiVi PARKを中心とした空間構成はショッピングや飲食ではなく、ここにしかない「体験」を中心とした商業施設づくりを体現しており、より多くの来街者が行き交う、まちの賑わいの拠点となることを期待している。

設計担当 総括・意匠：古池章規 構造：岩淵佳隆・草刈崇圭
設備：林達也・森勇太

北海道新聞社ビル

発注者 株式会社北海道新聞社
設計監理 株式会社三菱地所設計
施工 岩田地崎建設株式会社



北正面ファサード



北正面ファサード（夜景）



2F 3C ZONE
© 西川公朗

《設計概要》

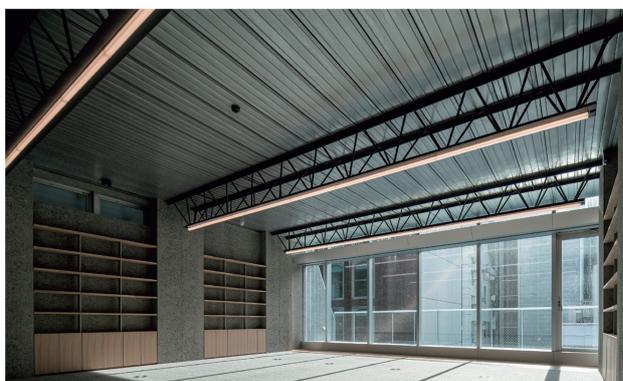
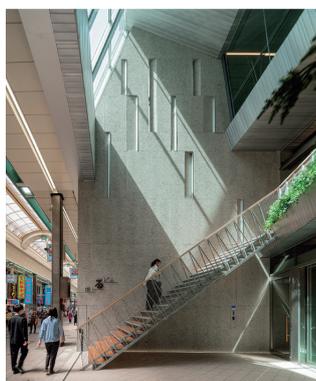
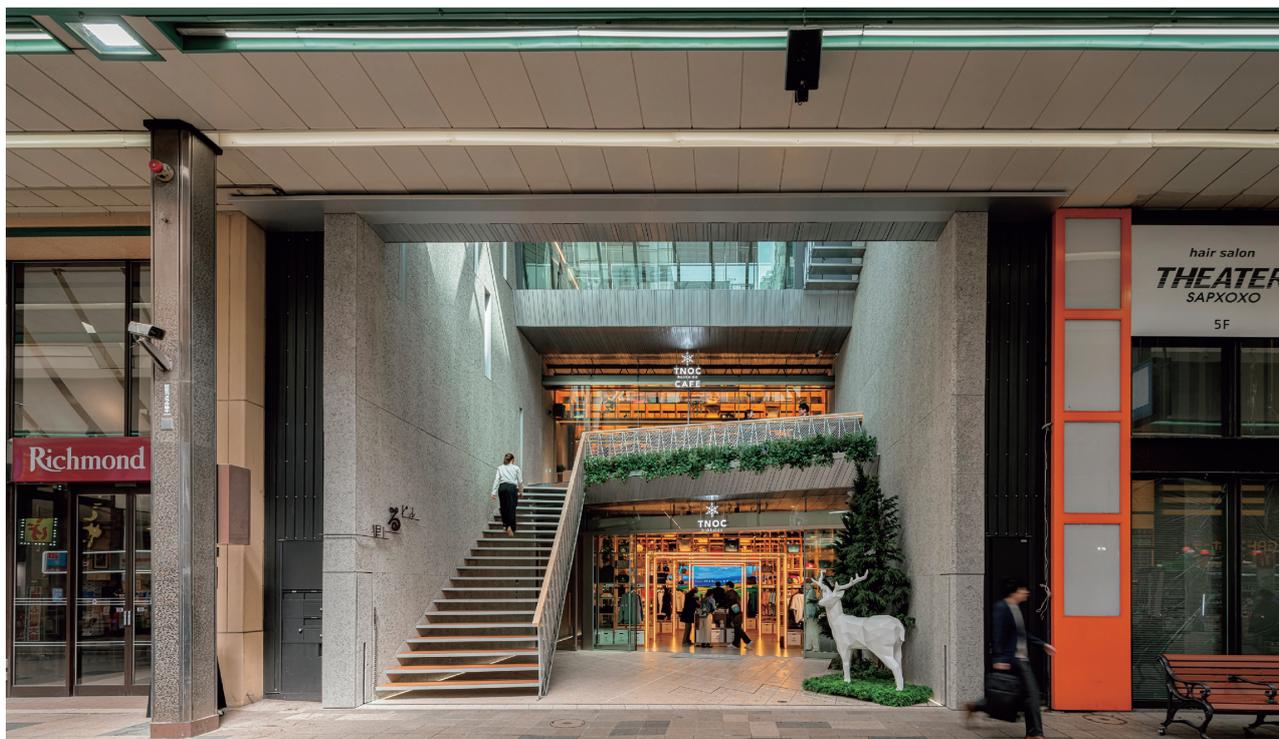
建設地 北海道札幌市
主用途 事務所（本社）
用途地域 商業地域
敷地面積 3,563.39 m²
延べ面積 19,773.73 m²
構造 地上9階 地下1階
地上階：S造 地下階：RC造
工期 2023年1月～2024年8月
外壁仕上 ガラスカーテンウォール、ECP

《設計趣旨》

札幌市創成東地区大通り沿い、都市軸の結節点に北海道新聞社の本社を移転するプロジェクト。ワーカーにコミュニケーションを促し、その活動を展開させる空間と動線を「3C ZONE (colorful/connect/collaboration)」と名付け、大通りに面して配置。マスメディア企業として情報を生産・発信するために刻々と変化するワーカーのアクティビティが、新聞紙の一面のように表出するファサードを作り上げた。ファサードの背景に配されたシンボリックな塔は、煙突状のボイドが組み込まれ、執務空間をはじめとする建物内の自然換気を煙突効果により促す効果を有する。また、この塔には粉末状の道産材レンガが塗り込まれており、地域に愛されるメディアセンターとしての一要素を構成する。本建物が同社のキャッチフレーズ「変革と挑戦」を体現する地域のシンボルとなることを期待する。
(担当：野嶋敏・東海林孝男・沼田祐子)

狸上るビル

発注者 遠藤興産株式会社
設計監理 設計：株式会社竹中工務店北海道一級建築士事務所
監理：株式会社サン設計事務所
施工 株式会社竹中工務店



《設計概要》

面積 延べ921.45㎡

構造 RC造 地上5階

外観仕上 (外壁) コンクリート打放し補修の上、防水形複層塗材E

(ポケットパーク) 不燃木毛セメント板断熱複合型枠打込の上、EP塗装

工期 令和5年2月～令和5年12月

建設地 札幌市中央区南2条西4丁目4-3

《設計主旨》

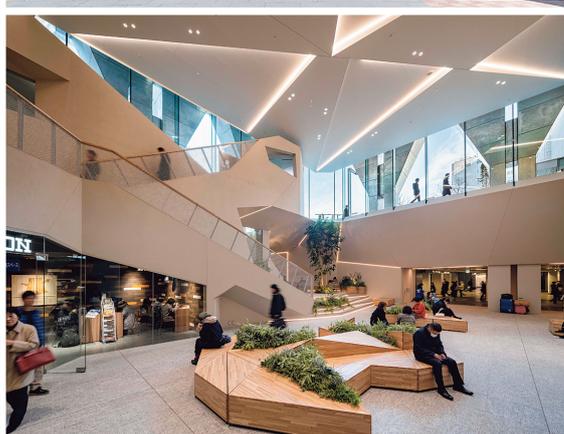
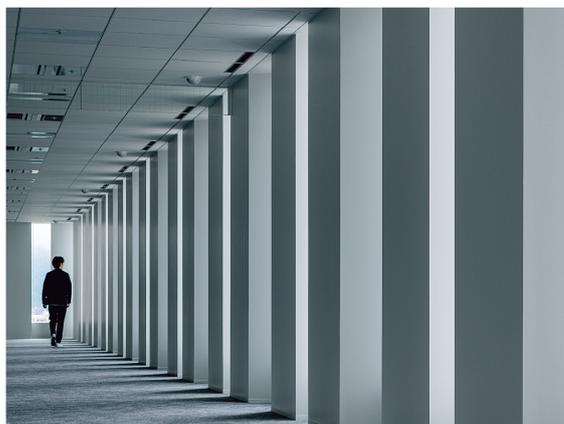
狸小路商店街に建つ小規模複合ビル。建物壁面のセットバックにより、半屋外のポケットパークを創出。ポケットパークは3層吹抜空間とし、2階への階段、アーケード上下の空間を望むテラス、3階にガラススクリーンを設けて動線と視線を繋ぎ、街との関係性を関係性を立体的に拡張した。

また、接道がアーケード側のみとなる施工的制約の多い計画地において、打込型枠や支保工兼用のラチス梁により、生産合理化と建設資材削減を図るとともに、ものづくりの過程をそのままインテリアに表出させた空間づくりを目指した。

設計担当：千葉拓也・高嶋一穂

D-LIFEPLACE 札幌

発注者 第一生命保険株式会社
設計監理 株式会社竹中工務店北海道一級建築士事務所
施工 竹中・岩田地崎・伊藤建設共同企業体



《設計概要》

面積 延べ15,760.02㎡
構造 S造、SRC造、RC造 地下1階・地上13階
外観仕上 PCカーテンウォール
工期 令和3年12月～令和5年5月
建設地 札幌市中央区北3条西4丁目1-4

《設計主旨》

札幌駅前通りに面し、地下歩行空間「チ・カ・ホ」に直結する、低層部に商業テナントを配したオフィスビル。交差点に面して吹抜けを設け、階段とスキップフロアによって地上と地下の賑わいをゆるやかに繋ぎ、地域に開かれた広場空間を創出している。オフィス実有効面積を高める小径ツイン柱の外殻構造、外皮負荷に応じた開口サイズや室内側壁面角度の最適化により、高い快適性と環境性能を併せ持つ北国のワークプレイスを実現した。

設計担当：高嶋一穂・千賀順・千葉拓也